

大阪自治労連第39回定期大会（9月6日）



憲法と地方自治が花ひらき だれもが希望と意欲をもてる職場へ

大阪自治労連は「憲法と地方自治が花ひらき、だれもが希望と意欲をもてる職場へ 仲間とつながる大阪自治労連」をスローガンに第39回定期大会を9月6日に大阪市内で開催し、2027年度の運動方針を決定しました。大会は代議員、傍聴者、来賓、執行部から約170人が参加し、坂田委員長のあいさつ、自治労連本部の福島委員長、大阪労連の福岡議長、大阪自治労連弁護団の谷井護士の来賓あいさつの後、執行部が議案を提案。32人の代議員が発言して活発な討論を行い、すべての議案を圧倒的多数の賛成で採択しました。
【2・3面に特集記事】

門真市職労役員不当処分取消訴訟 高裁でも勝利判決を



大会会場で支援を訴える原告の
西本さん（右）東さん（左）

「だまし討ち」のような懲戒処分があってはならないとの司法判断が地裁で示された意義はとても大きいです。また、地裁に先立ち審査請求を棄却した門真市公平委員会の「公平さが疑われる」判決については改めて取消を求めています。大阪高裁の判決は11月6日。高裁でも勝利判決をかちとるために裁判所宛の要請署名を集めましょう。

仲間とつながる大阪自治労連

どの球場でも意外と知り合いに会うことがあるため
帽子とマスクは必須だそうです



大阪自治労連関連評議会 副幹事長

松下 一美さん（堺市職労）

全国各地で

好きなことがたくさんある松下さん。その1つがプロ野球観戦です。小学生の頃から野球好きの親戚のおじさんに藤井寺球場や甲子園球場に連れて行ってもらっていたそうです。「子どもだったこともあり、選手が声をかけてくれたりと、その距離の近さが好きになりました。でもヤジは好きじゃありません」と東京ドームやマツダスタジアムにも遠征する、広島東洋カープ推しの松下さんにお話を聞きました。

どんなことに
やりがいを感じますか？

家庭児童相談員をしています。公務の仕事は、だれかの日常生活に関わるものが多い中で、専門職として、子どもだけでなく保護者など、そのお一人おひとりの人生に関わることができることにやりがいを感じています。

働いていて、こんなふうになっただけいいな、と思うことはありますか？

がんばっている人が、きちんと報われる世の中であってほしいです。まずは、安心して働き続けられる身分と職場であること。会計年度任用職員は毎年度雇止めになる制度です。コロナ禍でも、正規職員と一緒に働いていましたし、必要な資格を持ち、専門職として働いていても「いつでも取り換えられる」身分なので、「私たちがしている仕事は、本当に正当な評価がされているのか？」と疑問や不安がなくなりました。



大阪から5人で参加した7・24中央行動・総務省前（松下さんは前列右）。この後、人事院要請団として非正規労働者としての思いを訴えました

これまで、組合の活動として堺市から外に出たことがなく、昨年の北九州の自治労連大会がはじめてでした。たまたま、代理で関連評の幹事会に出ることになり、「8月に北九州で非正規公共評の大会があるので行きませんか？」

関連評や全国の取り組みに参加して、どんなことを感じていますか？

そして、何も言わなくても、だれもが仕事の内容や責任に見合った賃金と労働条件が保障される社会であってほしいです。

と誘われ、日が空いていたのと「こんな機会はないかな」と思っ、事前大会と自治労連大会の3日間参加しました。近畿・全国のみなさんとの出会いが貴重な経験でした。それによって、堺の非正規の状況や目標などをより深く理解することができました。今年も盛岡の大会に参加して、各地の学童保育の委託・民営化のことを聞いておどろきました。他の地域や職種の方もそうですが、みなさんどんな時でも「あきらめていない」と、たたかおうとしている姿がすごいと感じましたし、前向きなお話をたくさん聞けて元気をもらいました。そして「組合があること」の意味を今までよりもずっと身近に感じるようになりました。

わからないことも多いですが、関連評のみなさんと雇用の問題や労働条件の改善につながるようにこれからもがんばりたいです。



昨年北九州で開催された自治労連大会に初参加



おおさか
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合) 2026年9月15日 No.426

〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪グリーン会館 4階 ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人/坂田 俊之 編集人/有田 洋明
毎月15日発行(1部10円)組合員の購読料は
組合費に含まれています。